

ものづくり愛知県の港湾における安全・安心な生活基盤の確保（重点）（防災・安全）

計画概要**◆計画期間**

平成27年度～平成31年度(5年間)

◆計画の目標

洪水や高潮との闘いの歴史を継承し、地域と連携して平野部を中心としたハード対策や大規模災害に備えた施設づくりを実施し、風水害に対して安全・安心な地域を形成する。

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①:津波・高潮災害により被害が想定される地域において、今後対策が必要な海岸堤防、水門・樋門等の整備により23km²の防護面積を増加する。

指標②:海岸保全施設のライフサイクルコスト縮減を図るため、県内全域の海岸保全施設(堤防・護岸等)について長寿命化計画を策定する。

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 海岸事業	1,933百万円	三河港海岸、衣浦港海岸等の耐震化を実施。	30.7%
B 関連社会資本整備事業	0百万円	-	-
C 効果促進事業	0百万円	-	-
合計	1,933百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

- ・指標①:津波・高潮災害により被害が想定される地域において、今後対策が必要な海岸堤防、水門・樋門等の整備により23km²の防護面積を増加する。
⇒ 衣浦港海岸富貴武豊地区(別紙1)
- ・指標②:海岸保全施設のライフサイクルコスト縮減を図るため、県内全域の海岸保全施設(堤防・護岸等)について長寿命化計画を策定する。
⇒ 長寿命化計画(別紙2)

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①: 津波・高潮災害により被害が想定される地域において、今後対策が必要な海岸堤防、水門・樋門等の整備により23km²の防護面積を増加する。

最終目標値	23km ²	目標値と実績値に差が出た要因	厳しい財政状況の中で予算確保ができなかったが、選択と集中を行うことで整備を着実に進めている。
最終実績値	8.8km ²		

指標②: 海岸保全施設のライフサイクルコスト縮減を図るため、県内全域の海岸保全施設(堤防・護岸等)について長寿命化計画を策定する。

最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	差違なし。
最終実績値	100%		

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

・特になし

◆今後の方針

- ・洪水や高潮との闘いの歴史を継承し、大規模災害に備えた施設づくりを実施し、風水害に対して安全・安心な地域を形成するため、R2年度から新たな計画を策定し、海岸整備を推進する。
- ・未完了の事業については、早期整備完了を目指す。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

策定主体にて評価を実施。

事後評価の実施時期

令和4年3月

公表の方法

WEBページ公開

(<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kowan/0000042594.html>)

【基幹事業】

■事業名

海岸高潮対策事業(衣浦港海岸富貴武豊地区)

■工事概要

当海岸は、衣浦港沿岸部に位置しており、武豊火力発電所をはじめ、北側に工業地帯が隣接する箇所であり、防護区域内には一般家屋が連担している箇所である。堤防施設が液状化層の上に立地しているため、地震時には液状化に伴う円弧滑りが起こり、堤防の決壊が想定される。また、地震被害に伴う堤防の沈下により、堤防高が想定津波高を下回ることが予測され、広範囲の浸水が危惧されることから、堤防の補強をする。

■事業箇所

知多郡美浜町大字布土地内

■事業主体

愛知県

■事業効果

堤防の耐震化により、当該地域に想定される津波高さ以上の堤防高を確保することができ、津波の背後地への浸水を防ぐことができる。

施工前



施工中



位置図



施工後



【基幹事業】

■事業名

港湾海岸堤防等老朽化対策緊急事業(管内全域)

■事業概要

県内全域の海岸保全施設において長寿命化計画を策定する。

■事業箇所

県内全域

■事業主体

愛知県

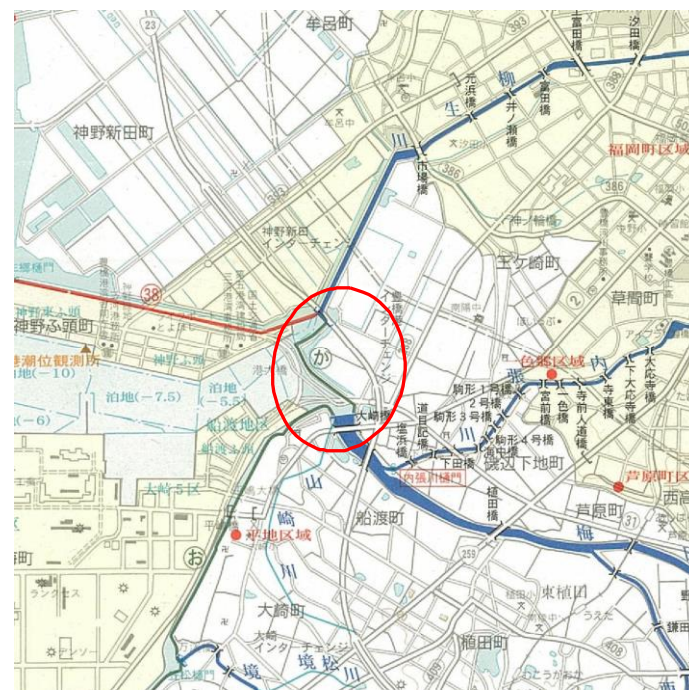
■事業効果

海岸保全施設のライフサイクルコスト縮減を図る。



計画策定状況

海岸保全施設長寿命化計画 ～堤防・護岸・胸壁編～ 三河湾伊勢湾沿岸 三河湾海岸 豊橋地区



平成 29 年 3 月

愛知県 三河港務所

(港湾局所管)